

**WEEKLY SIGNAL**

平成31年1月11日(金) 1457号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

|        | 1/14(月)         | 1/15(火)   | 1/16(水)  | 1/17(木)  | 1/18(金)  |
|--------|-----------------|---|--|--|--|
| 無担保O/N |                 |   | △0.086% ~ 0.001%   |  |  |
| 銀行券    |                 | + 2,500   | + 2,000  | + 1,000  | + 1,000  |
| 財政他    |                 | △ 7,900   | + 1,000  | △ 18,000   | △ 2,000  |
| 資金需給   |                 | △ 5,400   | + 3,000  | △ 17,000   | △ 1,000  |
| 主な要因   |                 | 源泉税揚げ<br>国庫短期証券発行・償還(3M)<br>国債償還(2年)                                  |  | 国債発行(5年)   |  |
| オペ期日   |                 |   |  |  |  |
| オペスタート | 成人の日            |   |  |  |  |
| (日本)   |                 | マネーストック(12月)<br>営業毎旬報告(1月10日現在)<br>工作機械受注(12月)                        | 国内企業物価指数(12月)<br>機械受注(11月)   |  | 消費者物価指数(全国、12月)<br>対外・対内証券投資(1月6-12日)  |
| (海外)   | ユーロ圏 鉱工業生産(11月) | 米 ミネアポリス連銀総裁の講演<br>米 カンザシティー連銀総裁の講演<br>米 ダラス連銀総裁の講演<br>英 EU離脱合意案の議会採決 | 米 地区連銀経済報告<br>米 ミネアポリス連銀総裁の講演<br>米 小売売上高(12月)<br>米 企業在庫(11月)<br>米 NAHB住宅市場指数(1月) | 米 クオールズFRB副議長の講演<br>米 住宅着工件数(12月)<br>米 新規失業保険申請件数(12日終了週)<br>ユーロ圏 CPI(12月) | 米 ニューヨーク連銀総裁の講演<br>米 フィラデルフィア連銀総裁の講演<br>米 鉱工業生産指数(12月)<br>米 シガン大消費者マインド指数(1月、速報) |

**[インターバンク市場]**

| 無担保ターム物 | 予想レンジ          |
|---------|----------------|
| SPOT 1M | △0.020 ~ 0.050 |
| SPOT 2M | △0.020 ~ 0.060 |
| SPOT 3M | △0.010 ~ 0.070 |
| SPOT 6M | △0.010 ~ 0.100 |

**<インターバンク>**

日銀当座預金は週初、388兆2,000億円から始まった。その後、同残高は8日の法人税・保険揚げや9日の財政等要因により385兆円台まで減少し、週末となる11日には385兆6,700億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.068%から始まった。その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は上昇基調となり、週末となる11日には△0.058%となった。  
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.05%~△0.02%台での取引がみられた。  
日本銀行が10日に発表した2018年12月の無担保コール市場残高は、7兆2,019億円(前月対比1兆2,362億円の減少)と、2か月連続の減少となった。  
来週は国内では、12月のマネーストック(15日)、12月の全国消費者物価指数(18日)、海外では、英国EU離脱合意案の議会採決(15日)、米地区連銀経済報告(16日)などが予定されている。

**[オープン市場]**

|            |                |
|------------|----------------|
| CP3M(a-1+) | △0.015 ~ 0.000 |
| TDB 3M     | △0.20 ~ △0.15  |
| 現貨(on/1w)  | △0.050 ~ 0.000 |

**<C P>**

今週の入札発行総額は約1兆4,900億円で、週間償還額(約8,400億円)から大幅に増加した。発行市場は、商社の連日オファーされた大型発行や年明けの発行再開もあって、週間を通じてマーケットは活況であった。12月末のCP市場残高は18兆8,048億円であったが、10日時点では約20兆6,400億円となっている。発行レートは、根強い運用ニーズから浅いマイナス~0%近辺のレンジで変わらず。CP等買入オベが、10日に2,500億円(前回比+500億円増)でオファーされ、按分レート△0.001%、平均落札レート0.003%と、いずれも前回比で横這いとなった。  
来週の償還総額(1/15~1/18)は、4,900億円程度となっている。発行市場は、引き続き企業の発行再開もあり発行超が予想される。発行レートは、投資家・ディーラーの購入ニーズが引き続き強く、マイナス~0%近辺での出合いが中心を予想するが、大量発行を行っている一部銘柄については、ややレート上昇が見込まれる。 CP等買入オベが、16日に2,500億円程度オファーされる予定。

**<TDB>**

今週は国庫短期証券入札が3回実施されたこともあり、入札は需給の緩みが意識された結果となった。8日入札の3M805回債は、最高落札レート△0.1455%(前回債△0.1751%)、平均落札レート△0.1529%(同△0.2053%)と前回債から利回りが上昇。9日入札の6M806回債も最高△0.1410%(前回債△0.1603%)、平均△0.1410%(同△0.1683%)と前回債からマイナス幅を縮小した。週末11日入札の3M807回債は、最高△0.1459%(前回△0.1455%)、平均レート△0.1504%(同△0.1529%)と概ね前回債と同水準の結果となった。  
週末のセカンダリー市場は、やや買いが入り底堅い展開に。新発3M物は△0.165%程度、同6Mは△0.18%程度と入札水準より強めの出が見られた。  
来週は17日に1Y、18日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGC取引は年初△0.08%~△0.09%から始まり、8日受渡し以降は△0.08%近辺の出合いが続いた。積み最終日となる15日受渡しは、前場△0.10%台半ばからofferが入り始めたが、最終的には△0.10%~△0.11%が出合いの中心となった。SC取引では10年351回債と352回債のbidが多く、国債買入オベがオファーされた7日受渡しでは、共に△0.10%台後半~△0.20%近辺の出合いが見られた。他2年394・395・396回債、5年135・136・137回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353回債、20年164・165・166回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。